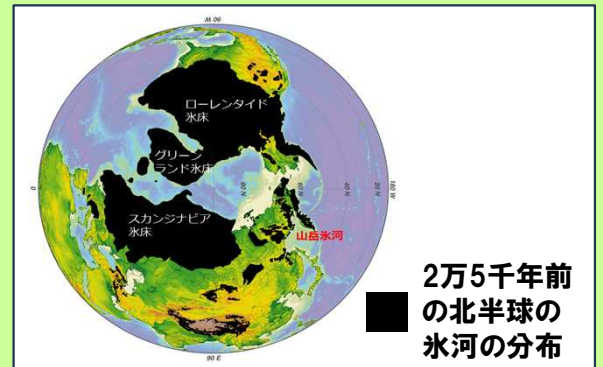


日本へとつながるアジア大陸の人類移動、氷河期の森林拡大が要因だった



アフリカを出発した現生人類(ホモ・サピエンス)は約5万年前以降に2つのルートに分かれてアジアを移動しました。そのうち、北ルートは西アジアからアルタイ山脈を通り、シベリアのバイカル湖周辺(バイカル地域)に移動したとされています。



バイカル地域の遺跡から石器(写真左)や骨角器(写真右)が多数発見されており、その特徴から4万5千年前頃からこの地域に人類が居住し始めたと考えられてきました。

しかし、その頃は氷河期(氷期)と呼ばれる寒い時代でした。特に、約2万5千年前の最も寒かったとされる時期には北半球を広く大陸氷河や山岳氷河が覆っていました。

氷河期の寒いバイカル地域で、なぜ人類は移動・居住できたのでしょうか？

シベリアでは氷河期に起きた森林拡大が現生人類の移動を促したことがわかりました。約3万8千年前に起きた日本列島への人類移動と関連付けて解説します。

講師：志知幸治(北海道支所)

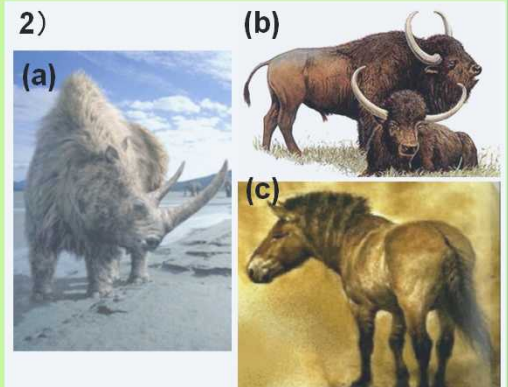
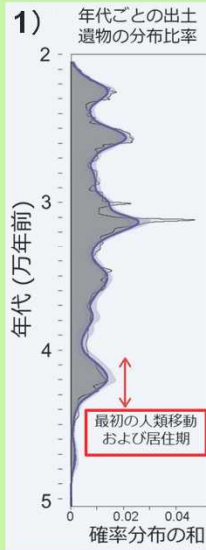
日本へとつながるアジア大陸の人類移動、氷河期の森林拡大が要因だった

1. バイカル地域に人類が初めて移動・居住した時代は？

遺跡から出土した炭や骨角器といった炭素を含む遺物282点を対象に年代測定を行い、出土した遺物の年代ごとの分布比率から人類が移動・居住した正確な時代を明らかにしました。

その結果、**約4万4千年～4万年前**にアルタイ地域からの人類移動および居住が生じたことがわかりました。

その時代の人類はケブカサイ、ステップバイソン、馬などの草食動物を主に食料としていたと考えられています。



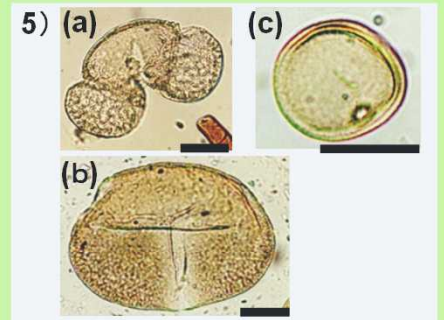
1) バイカル地域から出土した遺物の年代ごとの分布比率、2) その時代の遺跡から骨が出土した動物:(a)ケブカサイ、(b)ステップバイソン、(c)馬

2. 人類が初めて居住した時代の植生は？

バイカル湖の湖底から採取した堆積物に含まれている花粉の種類と量の変化を調べました。

その結果、バイカル地域では約4万5千年～4万年前にマツ属やトウヒ属などの針葉樹にイネ科などの草本が混ざる**森林ステップ植生**に覆われたことがわかりました。

その前後の時代には森林はほとんどなかったことから、4万5千年～4万年前は氷河期の中では比較的温暖な時代(亜間氷期)であったことがわかりました。



4) バイカル湖水上で堆積物採取の様子、5) 4.5～4万年前に対比される堆積物から多産した花粉(スケールは20μmを表す):(a)マツ属、(b)トウヒ属、(c)イネ科、6) 森林ステップ植生のイメージ(モンゴル中部で撮影)

3. 人類が移動できた要因は？

以上のことから、人類が移動できた要因として、**氷河期中の一時的な温暖化により森林を含む植生が拡大した**ことが明らかになりました。この時期にアルタイ山脈から人類が移動したと考えられました。

人類は約3万8千年前にアジアから日本に移動したと考えられています。その移動が琉球列島、朝鮮半島、サハリンのいずれを経由したか、またその時期はどのような森林環境にあったか、今後明らかにしたいと考えています。



7) 左図: 想定されているアジアから日本への人類の移動経路、8) 新潟県柏崎市における人類移動時期の森林復元のための調査:(a) 試料採取風景、(b) 採取したコア試料